

トピックス 1 : 火災報道の通例 —木造だけが特別扱いの報道をされる理由は?—

先日も、長崎のグループホーム火災で死者多数の報道がなされたが、アナウンサーは単に、「グループホームで火災があり」と冒頭原稿を読んでいる。これが、木造の火災の場合は違うことにお気づきだろうか。このように読まれる「木造モルタル2階建のグループホームで火災があり、全焼し死者多数がでました。」。鉄筋コンクリート造や鉄骨造では、構造を読まないが、木造の場合のみ木造2階建、木造3階建と構造を読む。いかにも木造だから火災になることを強調している。このことは、消防白書の書き方をみても、木造が火災に弱いとのイメージを持つように書かれると私は思う。

平成22年度の消防白書では「平成22年中の建物火災を火元建物の構造別に見ると、木造建物が最も多く、建物火災の42.1%を占めている。」「また、火元建物以外の別棟に延焼した火災の割合（延焼率）を火元建物の構造別に見ると、木造が最も高く29.2%になっている。」「また、火元建物の構造別に火災1件当たり延焼床面積を見ると、木造は66.7㎡であり、全建物火災の平均43.7㎡の1.5倍となっている。」と記述されている。ご丁寧に文章中の木造の単語部分だけが赤字となっている。事実を淡々と書いているといえはそのとおりだが、読み手側は木造は火災に弱いと読むんじゃないかなあ。そもそも率を示すのであれば、日本全体の構造ストック数で割らなければ、本当の分析にはならない。引用されている表では、焼損床面積が引用されているが、損害額は引用されていないが、損害額は、木造より防火造の方が高い。

このように、いまだに意識の中に木造は火災に弱いので建てるべきではないとの考えが染み渡っているように思える。かつての木造3階建共同住宅の火災実験では、火の回りが遅いと、関係者は「おかしいな。燃えないぞ」と発言していたものである。

こんなことに拘るのはどうかという人もいるかもしれないが、技術の進歩が教育意識の変化に反映されないのは残念としか言いようが無い。もう、既に木造準耐火はもちろんのこと木造耐火も続々と新設、計画中である。今度は東京の銀座2丁目にビルが建てられるようである。

－その1 耐火木造の建築事例報告－

- ① 名称：サウスウッド
用途：商業施設（ショッピングセンター）
場所：神奈川県横浜市都筑区
規模：地下1階、地上4階（延べ床面積：10,874.33㎡）
- ② 名称：ウッドスクエア
用途：事務所（ポラテック本社ビル）
場所：埼玉県越谷市七左町2丁目7番地
規模：地下1階、地上4階（延べ床面積：6611.63㎡）
- ③ 名称：丸美産業本社ビル
用途：事務所
場所：愛知県名古屋市瑞穂区
規模：地上5階（延べ床面積：3,244㎡）
- ④ 名称：デイサービスセンター併設介護付き有料老人ホーム「やよいのもり」
用途：福祉施設
場所：岡山県岡山市東区中尾1036
規模：地上3階（延べ床面積：1,384.78㎡）
- ⑤ 名称：特別養護老人ホーム杉の子「元気の家」
用途：福祉施設
場所：岡山県倉敷市徳芳501-1
規模：地上3階（延べ床面積：5,065.45㎡）
- ⑥ 名称：特別養護老人ホーム「夢」
用途：福祉施設
場所：岡山県玉野市山田468番地1
規模：地上3階（延べ床面積：2,634.21㎡）
- ⑦ 名称：東部地域振興ふれあい拠点施設「ふれあいキューブ」
用途：複合施設（事務所等）
場所：埼玉県春日部市南1-1-7
規模：地上6階（1～4階：鉄骨造、5、6階：木造）（延べ床面積：10534.56㎡）
- ⑧ 名称：Mビル
用途：教育施設（各種学校）
場所：石川県金沢市広岡2丁目
規模：地上5階（1階：RC造、2～5階：木造、延べ床面積：374.80㎡）

－その2 準耐火木造の建築事例報告－

- ① 名称：特別養護老人ホーム「国見の里」
用途：福祉施設
場所：福島県伊達郡国見町大字小坂南3番地
規模：地上1階（延べ床面積：5,582㎡）
- ② 名称：守谷市立守谷小学校
用途：教育施設
場所：茨城県守谷市本町858番
規模：地上2階（延べ床面積：7,471㎡）
- ③ 名称：新発田ガス新社屋
用途：事務所
場所：新潟県新発田市豊町1-4-2
規模：地上3階（延べ床面積：1,975.10㎡）
- ④ 名称：さくら中央保育園
用途：教育施設
場所：東京都大田区中央5-30-18
規模：地上2階（延べ床面積：691㎡）
- ⑤ 名称：三陸中部森林管理署東町公務員宿舎
用途：居住用施設
場所：岩手県大船渡市盛町字東町17-1
規模：地上3階（延べ床面積：544㎡）
- ⑥ 名称：岩手県一関市立川崎中学校
用途：教育施設
場所：岩手県一関市川崎町薄衣上段1
規模：地上2階（延べ床面積：3,020.40㎡）